

『 / 』 ユーザー

OS ユーザー認証

sqlner.ora の設定

コンテナ・データベース名とプラガブル・データベース名

『 / 』は、ユーザー名もパスワードも指定していない状態で、現在 OS にログインしている OS のアカウントとパスワードを使って Oracle に接続させる機能です

Oracle をインストールすると、OS 側に OSDBA と OSOPER に対応するグループが作成されます。

OS ユーザーをこのグループに所属させれば、OS で設定してあるユーザーとパスワードで Oracle に接続することができるようになります

なお、OSDBA と OSOPER は、Oracle の仮想上のグループで、実際に OS に作成されるグループは、以下の表のとおりです

	Windows でのグループ名	UNIX でのグループ名
OSDBA	ORA_DBA	dba
OSOPER	ORA_OPER	oper

OS 側の設定

作成されたグループ名の配下に、ログイン対象の OS のユーザーを登録（所属）させる

Oracle 側の設定

OS と同一名のユーザーを定義する必要はない

Oracle の仮想上のグループ名にアクセス権限を付与する必要はない

sqlnet.ora の設定が必要（次ページ参照）

コンテナ・データベース (CDB) への OS 認証接続

使い方

```
sql> connect / as sysdba
```

【 注意点 】

/ (スラッシュ) だけを使った接続は、~~Oracle サーバのキーボードからしか実行できない~~

を使用する場合には、サーバーが OSDBA or OSOPER 権限を持っているかのチェックが必要となるので、クライアント端末から使用する場合にはユーザーが Windows Active Directory ドメインに参加していて権限を与えられている必要がある

※ OSDBA 権限のユーザーは、as sysdba を指定しないと、ORA-01017 : invalid username/password ; logon denied エラーが発生する

プラグブル・データベース (PDB) への OS 認証接続

プラグブル・データベース (PDB) への OS 認証接続は、直接は認められていない

この場合は、一度コンテナ・データベース (CDB) へ OS 認証接続した後に、接続セッションをプラグブル・データベースへ変更させる

サーバーのキーボードからの操作が必要

手順 1. コンテナ・データベース (CDB) への OS 認証接続

```
sqlplus /nolog  
  
connect / as sysdba
```

手順 2. 現在の接続先データベース・インスタンスの確認

```
show con_name  
  
CON_NAME  
-----  
ORCL$CONTENA
```

手順 3. 全プラグブル・データベース・インスタンスの名前確認

※ コンテナ・データベースは表示されない

```
show pdbs  
  
CON_ID  CON_NAME  OPEN MODE  RESTRICTED  
-----  -  
3      ORCLPDB   READ WRITE NO  
4      ORCLPDB2  READ WRITE NO  
5      ORCLPDB3  READ WRITE NO
```

手順 4. プラグブル・データベースへのセッション変更

```
alter session set container = <プラグブル・データベースの名前>;
```

手順 5. 接続先データベース・インスタンスの確認

```
show con_name  
  
CON_NAME  
-----  
ORCLPDB
```

sqlner.ora の設定内容

```
# sqlnet.ora Network Configuration File:  
#      D:¥Oracle_Base¥product¥12.2.0¥dbhome_1¥network¥admin¥sqlnet.ora  
# Generated by Oracle configuration tools.
```

```
# This file is actually generated by netca. But if customers choose to  
# install "Software Only", this file wont exist and without the native  
# authentication, they will not be able to connect to the database on NT.
```

```
SQLNET.ALLOWED_LOGON_VERSION = 10
```

OS 認証を認めない場合

〃 認める場合

```
SQLNET.AUTHENTICATION_SERVICES= (NTS) ←
```

```
# SQLNET.AUTHENTICATION_SERVICES= (NONE) ←
```

```
NAMES.DIRECTORY_PATH= (EZCONNECT, TNSNAMES)
```